

2016年夏期セミナー印象記

嶽 精 二*

Seiji TAKE*

2016年7月8日（金）富士フイルム株式会社西麻布本社ホールにて「drupa2016 特集」～デジタル・アナログ印刷の世界的な潮流を知る～と題して、（一社）日本印刷学会主催による夏期セミナーが開催された。6月に開催された、4年に一度の世界最大級の展示会である drupa2016 を通じ、様々な講演者から多彩な切り口で今後の印刷について語っていただいた。

100名を超える参加者が集まる中、伊藤主査の開講の挨拶よりセミナーがスタートした（写真1）。以下に7名の講演者による6件の講演概要を記す。



写真1 伊藤主査

1. drupa2016 全体早わかり

ライター・レイター 山下潤一郎氏
経営コンサルタントの視点で、drupa2016を俯瞰的に分析、提言を交えいくつかのキーワードとともに紹介され、さらに次回 drupa の内容予想などを織り交ぜ語られた（写真2）。

「InkJet drupa Season3」をキーワードとしてインク

ジェットの多様化が進んだ中で、印刷会社は自身および顧客にとってのメリットや魅力を見出すべきであり、「色+α」としたキーワードでは、何を付加価値とし、万人ではなく「1%に刺さる」尖った印刷会社を目指すことが重要と提言された。



写真2 山下氏

2. drupa2016 とソリューション

（一社）PODi 亀井雅彦氏
（株）プルキャスト 岡本幸憲氏
デジタル印刷の価値を再考し、新しいビジネスを探るという視点で語られた。デジタル+アナログのハイブリッドで紙の価値を上げるという提言をされ、ハイブリッド印刷の例として、パーソナライズされたカタログ、追い刷型ハイブリッド印刷などが示された。

その他、HPの提唱したPrintOSにも注目される（写真3）。デジタル化はフルオープン化が前提であり、メーカーによる縛りがなくなること、標準化、コストもオープンな世界が出現すると説かれ、デジタルマーケティングはマスが大きい、日本でも成り立つはず、との見解を披露された（写真4）。

*大日本印刷（株）技術本部
（〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町1-1-1）



写真3 亀井氏



写真5 堀本氏



写真4 岡本氏



写真6 黒岩氏

3. 動画 / 写真でみる drupa2016

ジーエーシティ（株） 堀本邦芳氏
オフセット印刷機メーカーのデジタル化が印象的であり、HP ブースを見ると、サッカーボールのような立体物にも印刷デモをしているようにインクジェットで刷れないものはないという印象を語られた。多数の写真、動画が紹介され、drupa 現場の疑似体験をしているようであった（写真5）。

4. 印刷会社経営者からみた drupa2016

錦明印刷（株） 黒岩信司氏
将来的な技術展望として、今回オフ輪が1台も展示がないことに象徴されるようにデジタル化は止められず、デジタルのメリットを生かす、いずれは従来技術の置き換えを考える重要性を説かれ、デジタルは十分実用域に入っているが、それをどう使いこなすか、経営者視点で語られた（写真6）。

デジタル化は単なる従来機の置き換えではなく、デジタ

ル化による究極のオートメーション化を追求し、そのためのシステム開発力、開発費をいかに持つかが課題である。よく付加価値アップと言われるが、デジタルで提供できる付加価値を、いかに求める分野に提供すること、お客様が求める付加価値を追求することが重要である。

5. 中小企業からみた drupa2016

全国ぶらざ協議会 五百旗頭忠男氏
drupe には第4回から今回まですべて訪問され世界各地の国際展の訪問歴は業界で最長最多と言われる同氏からは、中小印刷業視点でみた drupa を軽快な語り口で語られた（写真7）。

日本ほど輪転機の多い国はなく、日本はチラシ中心の文化、米は通販カタログ・DMが多く、独はカタログ・ラベルが強い、各国の事情は違うが、まだ世界の全印刷50兆ページのうちデジタル印刷は2%の1兆ページに過ぎず、デジタル化にかかる期間5～10年かかるだろう。デジタル化で象徴的なことは、今回最大ブース出展者がハイデル

ベルグからヒューレット・パッカーに交替したことだ。中小印刷業の生きる方向として、印刷製造業、ワンストップサービス、多角化経営、などそれぞれに解があるはずだ。



写真7 五百旗頭氏

6. drupa2016でのLanda Nanographyの進化は？

(株)小森コーポレーション 吉川武志氏

注目のLanda最新情報を紹介いただいた(写真8)。

drupa会場でのプロモーションの様子、エコロジープロモーション、小森機ImpremiaNS40などをビデオで紹介されたほか、プリントサンプル、厚紙印刷加工サンプルも持参いただき講演の合間に間近に見ることができた。Landaと提携する小森コーポレーションならではの貴重な情報に満ちた講演であった。

今回の夏期セミナーはdrupaに特化した訳であるが、各方面で最前線の講演者から多様な内容の講演が聞けたことは有意義であり、drupa直後という開催タイミングの良



写真8 吉川氏

さと関心の高さもあり、大変盛況であった(写真9)。最後に、貴重な講演をいただいた講演者の方々、暑い中足を運んでいただいた参加者の皆様、会場を提供いただいた富士フイルム株式会社様、他関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。



写真9 会場の様子